

きゅうかなづか か もじ よ かた
 旧仮名遣いで書かれた文字の読み方

	しゆるい 種類	ひょうき 表記	はつおん 発音	れい 例	かいせつ 解説
1	しんかなづか つか 新仮名遣いで使われない もじ 文字	ゐ	い	ゐる(居る) → いる、ゐなか(田舎) → いなか	・「ゐ」はワ行のイ段音、「ゑ」はワ行のエ段音を表す文字で、古くは「うい」、「うえ」と発音されていた。
		ゑ	え	ゑむ(笑む) → えむ、すゑ(末) → すえ	・現在助詞としてのみ使われている「を」も、ワ行のオ段音を表す文字として、旧仮名遣いではよく用いられる。(例:をとこ(男) → おとこ、をり(折) → おり)
2	ぎょう もじ ハ行の文字 ごとういがい (語頭以外)	は	わ	には(庭) → にわ、まはる(回る) → まわる	・ハ行音は古くは「ふあ」「ふい」「ふ」「ふえ」「ふお」と発音されていたが、平安中期以降、語頭以外のハ行音がワ行音に変化した。
		ひ	い	こひ(恋) → こい、あひだ(間) → あいだ	・ハ行の文字が語頭にある場合はそのままハ行で発音する。(例:はし(橋) →
		ふ	う	いふ(言ふ) → いう、ゆふべ(夕) → ゆうべ	はし、ひと(人) → ひと)
		へ	え	まへ(前) → まえ、たとへ(譬へ) → たとえ	・複数の成分からなる複合語の場合や漢語の熟語の場合は、語頭でなくても成分
		ほ	お	かほ(顔) → かお、いほり(庵) → いおり	の最初のハ行の文字をそのままハ行で発音することが多い。(例:いひはじむ(言ひ始む) → いいはじむ、けいたいみやうもくへん(形体名目篇) → けいたいみょうもくへん)
3	「くわ」・「ぐわ」	くわ	か	くわいけん(会見) → かいけん、くわんじん(官人) → かんじん	・「くわ」「ぐわ」は音読みの漢語を仮名で書くときに用いられることがある。
		ぐわ	が	ぐわいこく(外国) → がいこく、きぐわん(祈願) → きがん	・古くは「くわ」、「ぐわ」と発音されていたが、時代が進むにつれて「か」「が」と発音されるようになった。
4	たんご 単語をローマ字で表記すると "au"/"afu"を含む場合	au	ō	かう(斯う) → こう、まうす(申す) → もうす	・"afu"で終わる動詞については、ōではなく au と発音することもある。(例:あふ(会ふ・逢ふ) → おう / あう、…たまふ(給ふ) → …たもう / たまう)
		afu	ō	たふ(塔) → とう、ざふか(雑歌) → ぞうか	
5	たんご 単語をローマ字で表記すると "eu"/"efu"を含む場合	eu	yō	せうと(兄人) → しょうと、れうり(料理) → りょうり	
		efu	yō	けふ(今日) → きょう、ゑふ(酔ふ) → よう	

※ 漢字の字音については、現在同じ仮名で表記される漢字でも、旧仮名遣いでは異なる仮名表記が用いられる例が多数ある。たとえば、「かい」には「かい」と「くわい」がある。「かい」と書かれるのは「改」、「界」、「皆」、「海」などであり、「くわい」と書かれるのは「回」、「会」、「快」、「悔」などである。また、「とう」には「とう」、「たう」、「たふ」がある。「とう」と書かれるのは「冬」、「投」、「頭」、「東」などであり、「たう」と書かれるのは「刀」、「当」、「党」、「島」などであり、「たふ」と書かれるのは「答」、「塔」、「踏」などである。詳しくは、古語辞典などに載っている「字音仮名遣い表」を参照してほしい。